

日本クルル教育学会第2回大会 <小一研究発表1> 於:早稲田大学

小学校外国語教育における CLILの受容と効果的指導

前長岡市立越路西小学校長
博士(学校教育学)

桑原 哲朗

発表概要

- はじめに
- 本研究の目的
- 受容について
- 国語科単元学習の開発手法とCLIL授業構成法
- 開発した単元
- 授業研究の実際
- 成果と課題
- 今後に向けて

はじめに

- 学習指導要領に外国語科・外国語活動が位置付けられ、全面実施を目前に現場の教職員は、授業時数の確保と充実した英語指導への不安が大きく、喫緊の課題となっている。
- 平成27年度から長岡市立越路西小は市の研究推進校として、国語科単元学習を中核にして、アクティブラーニング（「思考を活性化する学習」と定義）について研究を蓄積してきた。
- 研究の蓄積を活かし、小学校外国語教育において効果的な指導法があるのでは？
→CLILに着目

小学校外国語教育におけるCLIL実践の課題

- 主に大学、高等専門学校等での実践が多く、小中学校での認知度はまだ低い。
- CLILの4原理を取り入れた指導案作成の負担及び適切な教材の少なさ。
- 小学校英語中核教員の意識調査では、オリジナルな単元開発には前向きであるとは言い難い。

研究の目的

小学校外国語教育におけるCLIL実践上の課題である単元構成や指導法について、授業研究を通してその受容の様相と指導の有効性を明らかにする。

(1) CLILの原理を取り入れ、国語科単元学習の開発手法を援用して児童が学ぶに値する価値ある単元を作成する。

(2) CLILに基づく単元の実践を通して、児童の学ぶ姿はどのように変容したのか。

受容について

- 「受け入れて、取り込むこと。」
例 外国文化を受容する
- CLILの原理を受け入れて(理解)、日本の教育システム・慣習・文化を背景に、外国語教育に取り込み実践する。
- 受け入れて取り込む際に、何らかの形で日本的に変形・展開される。
- 既知既存のモノ・コト・方法との類似性を使って

国語科単元学習の開発手法とCLIL授業構成法

・ CLIL授業構成法(池田2016)

- (1) Activating 知識、経験、思考の活性化、ことば、視覚、数字による活性化
- (2) Input 学習内容の提示、複合的インプット、理解促進タスク、言語面の指導
- (3) Thinking 高次思考タスク、ペア・グループ活動、手続き的知識への転化、オーセンティック教材
- (4) Output 話す、書くによる成果物、内容と言語の足場作り、言語面の指導

・ 国語科単元学習の開発手法

身に付けさせたい能力・資質／児童の興味関心、知的好奇心／必然性・Authenticity(実の場)を包括する内容の設定

- (1) 児童の実態を踏まえ柔軟に指導計画を立てる
- (2) 児童が選択(判断)する機会
- (3) 話し合いにおいて見方・考え方を相互理解・変容させる教師の働きかけ
- (4) 表現・成果発表

開発した単元 <実践順>

- ・4年生 「Travel planを立てよう」 全4時間

Let's try2 : I like Mondays. 社会科 : 47都道府県名、名所・特産物

- ・3年生 「How many?数えて遊ぼう」 全4時間

Let's try1 : How many? 算数科 : 三角形など各種図形

- ・6年生 「にじ色歴史マップを作ろう」 全6時間

We can2:He is famous.She is great. 社会科 : 興味ある歴史上の人物や
出来事

- ・5年生「ワールドツアープランを考えて紹介しよう」 全9時間

We can1 : I want to go to Italy. 社会科 : わたしたちのくらしと国土、
世界の特色・文化

3年 How many? 数えて遊ぼう

6年 にじ色歴史マップを作ろう



授業研究の成果を生かし、課題を解決する。

- 4年生 「Travel planを立てよう」
初めてのCLIL授業であったが、予想を超えた児童の意欲的な取組を目の当たりにして、テーマ設定や方法に手応えを得た。
- 3年生 「How many?数えて遊ぼう」
1～20の数の習得は良好だったが、How many triangles? Answer please.を含めたターンの回数が多く、停滞する様子が見られた。
ジェスチャーをうまく使い、互いによく協力していた。
- 6年生 「にじ色歴史マップを作ろう」
パワポや図表等を使って各グループで分かりやすい発表が行われたが、聞き手側の反応や理解の示し方が不十分であった。
- 5年生 「ワールドツアープランを考えて紹介しよう」へ向けて

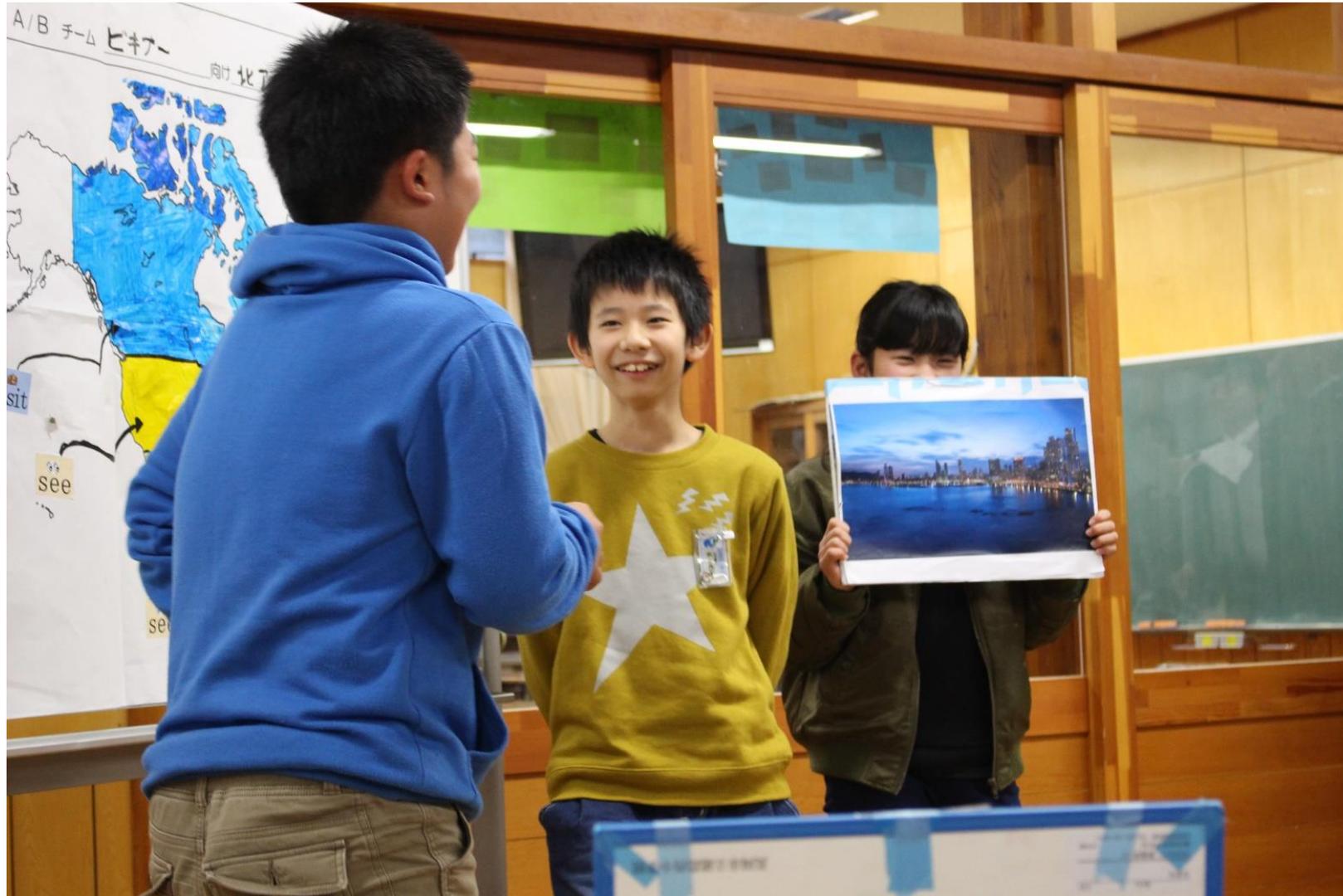
5年 ワールドツアープランを考えて紹介しよう

- 先行実践である4年生の「1週間国内旅行」を踏まえ、海外旅行を企画するツアー会社という設定
- グループ分け:ヨーロッパ・アジア・アフリカ・北アメリカ・南アメリカ・オセアニア
それぞれについてビギナー向け、エキスパート向け
- 児童各自でネットや旅行関連書籍等でおすすすめを調べる。
- 話合いで、相手を意識して訪問地を選びコースを作成する。
- 協働して写真を収集し、図表を作成する。
- 発表と練習(話す・聞く・返す)(ジェスチャー)(図表等の活用)
- コンテスト形式で、評価を行う。

授業研究会(2018. 12)



5年 ワールドツアープランを考えて紹介しよう<北アメリカ/ビギナーコース>



5年 ワールドツアープランを考えて紹介しよう <各自の評価とコメント>



評価と日常活動

コンテスト評価シート

ツアーコンテスト評価シート

No. 5 Name [redacted]

アジア 州担当プランナー A / (B) チーム

「歴史」 ツアー

☆ほかの担当プランナーの発表を聞き、ツアーコンテストの評価をしよう。

担当州とツアー名	ツアーコンテストの評価 (◎・○・△・×)			得点集計 ◎...4点 ○...3点 △...2点 ×...1点
	ツアーの内容 ①相手にふさわしいプランか	魅力を伝えるための発表内容 ②道員を有効活用しているか ③身体表現を工夫しているか		
アフリカ州 ツアー	○ (3点)	○ (3点)	○ (3点)	9点
ヨーロッパ州 ツアー	◎ (4点)	○ (3点)	◎ (4点)	11点
オセアニア州 ツアー	○ (3点)	○ (3点)	◎ (4点)	10点
南アメリカ州 ツアー	○ (3点)	○ (3点)	△ (2点)	8点
北アメリカ州 ツアー	◎ (4点)	◎ (4点)	◎ (4点)	12点

◇「話す・聞く・返す」の振り返り

《かがやき 話し合いスキルカード》★

No. [redacted]

◎: ぼつたりできた ○: まままできた △: あまりできなかった ×: できなかった

話す・聞く・返すスキル	10/20	11/20	12/20	1/20	2/20	3/20
【話すスキル】 上手く話さない場合でも、相手に分かってもらおうとして話している。	◎	○	○	○	○	○
【聞くスキル】 相手が伝えたいことを、分かってあげようとして聞いている。	◎	○	○	○	○	○
【返すスキル】 たくさん話しても構わない。相手の言葉に反応したり質問したりしている。	◎	○	○	○	○	○

◇ワールドニュースの発表

World newsスピーチメモ

11月 20日 (火) 【国名: フランス (パリ)】

★ニュースの内容
市中心部への自転車の乗り入れを一部をのぞいて全面的に禁止し、歩行者専用区画とする計画を検討している。乗り入れ禁止区画で小型シャトルバスを自動で運行することのアイデアとして出されている。これは、大気汚染を減らすことを考えているものだ。

★そのニュースに対する自分の考え
わたしは、車の排気ガスや工場からの排出物など、日々の生活の中で空気がよごれていくのだと思います。だから少しでもきれいな空気を保つためには、必ず計画だと思いました。でも車が通れないと不便なような気もします。

「外国語学習に関する児童アンケート(3～6年)の肯定的割合の変化」

(1) 学習したことばや表現を、生活の中で使うことがある。

53%→72%(+19%)

(2) うまく言えなかったり正しく言えなかったりしても、恥ずかしがらずに外国語で話そうとしている。54%→72%(+18%)

(3) 相手がうまく言えない場合でも、伝えたいことを分かってあげようとして聞いている。86%→92%(+6%)

(4) 相手がうまく言えない場合でも、相手に分かってもらおうとして話している。73%→83%(+10%)

(5) 相手に分かってもらうために、必要な時には表情で表したり身振りを付けたりして話している。53%→74%(+16%)

児童の変容

○学習意欲の高まり＝主体的な活動

- ・「英語を学ぶ」から「英語で何かを表現する」
- ・学習した表現を日常生活に使う。
- ・恥ずかしがらずにジェスチャーを行う。

○表現活動を通してコミュニケーションの本質へ

伝える側は自分の思いを何とかして**伝えたい**

受け手側はその意図や内容をできるだけ**分かりたい**

CLILの単元・授業づくりに、国語科単元学習の開発手法を援用することは有効に機能する。

○広く実践されている国語科単元学習の手法を援用することで、授業者に単元づくりや英語の使用に関して負担感を感じさせず、CLILの指導に取り組むことが可能である。同様に、児童も既知の学習法に上書きする形で取り組める。

○国語科単元学習が本来もっている教科横断的な特徴を生かし、言語系教科として互いに学ぶべきことがある。

△創作する単元によっては、指導時数が長くなる。

統合する教科について

○社会科が3実践を占めた

○「旅行計画」というテーマ

※「8つの知能を生かす活動に対する希望調査(5, 6年生)」の肯定的回答から

○言語的46%、論理・数学的70%、視覚・空間的58%、身体・運動的47%、音楽的42%、対人的60%、内省的39%、博物的62%

○肯定的回答の高い活動を多く組み合わせることでさらなる効果が期待できる。

英語習得と教科学習の動的バランス

<学習過程>

英語の目標表現の学習

→教科内容について調べたり話し合ったりする

→内容に関する英語への興味や知識欲が高まる

→さらに発表をよくしようと工夫する

→英語を使うことや教科内容の深い理解につながる

○言語学習と教科の内容学習の動的バランスがとれている状態

- 児童の英語への抵抗感や苦手意識の減少
- 「英語が必要だから使う」という意識へ

今後に向けて

(1) 教師の単元開発の労力及び資料作成の負担軽減

- ・各校で多様な実践を行い、広く公開し合う。それらを参考に自校の実態に合わせてたり改善したりして実践する。
- ・英語教室に、共通して使えるカードや絵図を整備。職員研修の時間を使って必要な教材を作成する。PCや大画面テレビの設置。

(2) 語彙量や文法の正確さ

- ・ソフトクリルのスタンス、目標表現の習得が第一
- ・「できるだけ」正確に→教師の力でできる範囲の正確さ

主な参考文献

- 山野有紀(2013) 「小学校外国語活動におけるCLIL(内容言語統合型学習)の実践と可能性」『EIKEN BULLETIN』Vol.25 pp.94-126
- 池田真・渡部良典・和泉伸一 (2016) 『CLIL(内容言語統合型学習) 上智大学外国語教育の新たな挑戦 第3巻 授業と教材』上智大学出版
- 茂木淳子(2018) 「CLIL教材開発に資する教員の意識調査」『教育実践研究』Vol.28 pp.157-162
- 桑原哲朗(研究代表者)長岡市立越路西小学校編 (2019) 『新しい時代を創る CLIL(内容言語統合型学習), アクティブラーニング思考を活性化する学習』めぐみ工房
- 笹島茂・山野有紀 (2019) 『学びをつなぐ小学校外国語教育のCLIL実践』三修社

『新しい時代を創る
外国語教育CLIL(内容言語統合型学習)
アクティブ・ラーニング 思考を活性化する学習』

- 研究代表者 桑原哲朗
長岡市立越路西小学校 編
- 論文2、講演会資料2、
指導案13 所収
- 2019年5月1日 刊行
- 発行・印刷 めぐみ工房
- 2000円

ISBN978-4-9904044-7-5

